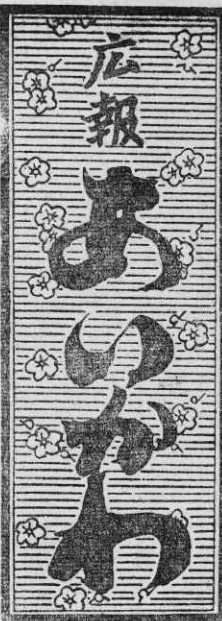


よなな

1964年



発行所 秋田県合川町役場 責任者(広報係)松橋新一 (勤務課 電話 4番・14番) (発行部数 2,600)

町のあゆみをふりかえって



- ①7月 部落づくり運動の一環として、部落づくりセミナー開講
- ②11月 新校舎の完成でどっかと根をおろす合川高校
- ③12月 役場の仕事を理解していただく青年婦人の1日職員の日

④6月 おくればせながら町内にも舗装道路がお見得した

⑤8月 今年の町民体育祭は町制施行10周年にふさわしい、楽しい1日であった

◇役場の年末年始◇

役場の年末年始は次のとおりです。

- ◇ご用納め 二十八日
- ◇年末年始の休み 自二十九日 至一月三日
- ◇ご用始め 四日

なお、この期間中でも、とくに緊急の用務(出生死亡)などは日直者に申出下さい。

大野台の開田、本格化

具体案は新年度を目標に

農業所得を多くするための施策はいろいろ考えられるが、とりわけ経営規模の拡大は最も緊要なものの一つであり町では開田事業を強力に推進しようとしている。このため大野台をはじめ杉山田、雪田、三里、羽根山等の開田適地の多い所はもちろんその他の地域でも開田可能地を調査の上、関係者へ呼びかける方針である。開田事業は金がかかり、農民負担も多いように考えられているが、大野台を開田する場合の例をとって見ると十割当りの事業費は大体十五万円内外となり、この内、国県よりの大巾な助成があるので実際の農民負担は六万円から七万円となっている。これを二十五年々賦で償還するとすれば毎年六千円内外即ち米一俵で自分のものとなる計算である。

町では大野台の町内地区即ち北西部地帯を水田として開拓する構想について関係者間に座談会を開いて開拓パイロット事業の協議を行なった。

この開田の構想とは、阿仁川の木戸石地内の俗称ガシヤ山付近から揚水し、大野台北西部一帯へ灌水しようとするもので、第一回目の関係部落ちとの座談会でだされた意見を尊重しながら新年度をめどに具体案の検討が進められている。農業を立町の基本とする合川町の発展に期待するものが大きく関係者のご協力によってその実現が望まれる。

町が関係部落ちとの座談会で明らかにした開拓パイロット事業のあらましは次のとおりである。

制度の趣旨

戦後の緊急開拓は人口対策と食糧増産を目的とし国が土地を強制買収、入植者を連れて社会不安対策を兼ねて行なってきた。

しかし開拓パイロット事業は農業基本法の趣旨である自主経営農家の育成と農家収入の増収を目的として行なわれる事業である。

従ってこの事業は、受益者の申請による事業であ

て関係者の同意が必要で即ち北西部地帯を水田として開拓する構想について関係部落ちとの座談会を開いて開拓パイロット事業の協議を行なった。

この開田の構想とは、阿仁川の木戸石地内の俗称ガシヤ山付近から揚水し、大野台北西部一帯へ灌水しようとするもので、第一回目の関係部落ちとの座談会でだされた意見を尊重しながら新年度をめどに具体案の検討が進められている。農業を立町の基本とする合川町の発展に期待するものが大きく関係者のご協力によってその実現が望まれる。

町が関係部落ちとの座談会で明らかにした開拓パイロット事業のあらましは次のとおりである。

制度の趣旨

戦後の緊急開拓は人口対策と食糧増産を目的とし国が土地を強制買収、入植者を連れて社会不安対策を兼ねて行なってきた。

しかし開拓パイロット事業は農業基本法の趣旨である自主経営農家の育成と農家収入の増収を目的として行なわれる事業である。

従ってこの事業は、受益者の申請による事業であ

て関係者の同意が必要で即ち北西部地帯を水田として開拓する構想について関係部落ちとの座談会を開いて開拓パイロット事業の協議を行なった。

この開田の構想とは、阿仁川の木戸石地内の俗称ガシヤ山付近から揚水し、大野台北西部一帯へ灌水しようとするもので、第一回目の関係部落ちとの座談会でだされた意見を尊重しながら新年度をめどに具体案の検討が進められている。農業を立町の基本とする合川町の発展に期待するものが大きく関係者のご協力によってその実現が望まれる。

消防陣に新兵器 羽根山へ消火栓設置

町内はじめ施設工事にあわせ落差によるの消火栓を設置する工事が羽根山部落(委員長 田一藏さん)ですすまら

ていたが、さき程の放水テストの結果予想以上の高圧力のもとに注水できることがわかり、部落の人達に喜ばれている。

羽根山部落



【写真予想以上の放水結果に喜ぶ部落の人達】

◇おしらせ◇

新年こう例の交歓会を次により開催いたします。老若男女を問わず多数のご参加を期待いたします。ご希望の方はどなたでもお気軽にお申し込み下さい。

記

39年1月1日正午 役場会議室

◇日時 200円(当日持参)

◇会場 12月31日正午まで

◇申込み 町教育委員会または役場(電話でも受け付けます)

合川町公民館

町の小、中、高校は次

のとおり冬休みを実施することになった。

町内各学校の冬休み

- ◇東小学校 十二月二十七日～一月二日
- ◇西小学校 十二月二十六日～一月二日
- ◇南小学校 十二月二十六日～一月二日
- ◇北小学校 十二月二十五日～一月二日

ご芳志に感謝

社会福祉協議会

- ◇斎藤育郎さん(駅前) 祖父修助さんの死亡による香典返しに代えて金貳万円也。
- ◇斎藤憲一(新田目) 妻トクさんの死亡による香典返しに代えて金壹万円也。
- ◇中村幹さん(駅前) 父弘さんの死亡による香典返しに代えて金貳万円也。
- ◇森岡初音さん(道城) 町社会福祉事業に対して金千五百円也。
- ◇岩沢徳松さん(李俵) 町社会福祉事業に対して金参千円也。
- ◇阿仁部遊接場組合 「愛の玉」拠出運動による寄附金四千百六十円。

◇消防団出初式◇

恒例の消防団出初式は、新年早々の五日、午前十一時から合川中体育館で行なわれることになった。

共同調理で好成績

葉たばこ 上杉改良団 耕作者の

上杉部落の葉たばこを耕作している上杉一二さんら十名の入達が、収納前の調理作業を部落会館を借りながら共同作業を行なった結果、個々で行なう作業とは比較にならない好成績に来年はもっと多くの作業を共同処理したいといっている。



【共同調理に励む上杉改良団の人々】

今年の葉たばこ収納(専売公社の買上げ)は去る三日から十六日まで米内沢収納所で行なわれたが、合川町の耕作者の努力が実り、その総売上げ代金は約四千万円に達し関係者を喜ばせている。

葉たばこは、農業収入として稲作に次ぐ実績をあげ近年その耕作面積は増反をつづけ、合川町における今年の栽培面積は四十七・五反に及んでいる。このことは耕作者の増加もありすが、従来からの耕作者一戸当りの面積が増えてきていることを意味している。

葉たばこの栽培で一番問題となることは、労力、つまり手間が多かるという点であり、この打撃策は何といっても共同化が先決ではないかと云われている。

成人該当者の方々へ

公民館からお願い

次に掲げる方々は来る一月十五日の成人式参列該当者ですが、公民館では住民票その他の資料によって名簿の下調べを行ないました。しかし、調査もれや、転出などによる不在者も相当あるのではないかと予想されます。

そこで、この名簿をご覧になられた本人はもちろん家族、友人の方でもお気づきの点がありましたらお手数でも係までご連絡下さい。連絡先は、合川町公民館(町教育委員会内、電話合

- 川局四番)です。より正確な「成人名簿」を作るため、みなさんのご協力をお願い申し上げます。
- ▲道場
- 小林均 松橋ミヅ 小林栄
 - ▲上杉
 - 米倉義昭 関多美男 関明
 - 工藤正雄 米倉岩男 工藤和久 米倉良子 米倉和子
 - 工藤貞子 笠井イサ 工藤ミイ子 工藤イサ 和田タエ 工藤雪子 永井久子
 - ▲下杉
 - 鈴木幸男 後藤安男 桜井小野良二 沢藤巖 藤島敏子

ここ上杉改良団(代表者上杉一二さん)の仲間達十人は、将来に大きな希望を託しながら稲の脱穀調整が終るとともに葉たばこの共同調理に取組み、なかなかの好結果をもたらした関係者の関心が寄せられている。改良団の人達は、今までと違って手間がかからない事ははつきり解った。いまは公民館を借りてやっているが、来春からは共同作業所を建てコンプレッサー二台(現在は一台)を据えつけ、多角的に利用できるようにしたい。また栽培も共同化にもって行きたいと話していた。

町政の方向を知る

好評の「一日役場職員」

町では去る十六日、町内の青年、婦人を対象とした「一日役場職員」の催しを行なった。

この日午前八時半、婦人会員二十三人、青年会員十一人が出勤、全職員一日役場職員としての席に全部この職員としての仕事を体験する。職員が仕事をし、本物の職員をそばに仕事の内容を聞かされた。朝の訓辞を聞き、各職場に分かれて実際に事務をとった。

町長には青年町長にふさわしく町連青副会長の三浦真一君、助役には女房役にピッタリの婦人会員中村ミツ子、一日役場職員としての仕事を体験する。職員が仕事をし、本物の職員をそばに仕事の内容を聞かされた。



【仕事の内容説明を聞く一日職員】

この「一日役場職員」の催しは役場の実務を通して町政への理解を深めるために開かれたもので、従来行なわれていた一日町長などと違って中々住民を対象としたところに特色があり県内初めての試みであった。

ある婦人会員は「役場がこんなに忙しいところだとは思っていませんでした。仕事の内容がみんな私達町民のためになるようにそして新しい町づくりに真剣に取り組んでいるのが痛感されました」と語っている。

何んといふあたたまる贈り物でありました。折よく歳末たすけあい運動を実施中の町民課係はこの好意を恵まれない人々に贈りたいと語っている。

【写真】マンモス競技場で晴れの表彰を受ける鈴木君三位

全国大会陸上百米

むづかしいと言われているが、この悪条件を克服して見事第三位入賞した鈴木君の快挙は各方面からたたえられている。

町政メモ

- 12月1日 全国町村長大会
- 2日 月例監査
- 4日 国有林開放東北大会
- 4日 新田目児童館落成式
- 5日 合川高校運営委員会
- 8日 戦没者叙勲の伝達
- 8日 人権擁護委員会
- 10日 土木工事関係入札
- 10日 東北ゼミ研修会
- 14日 国保運営委員会
- 15日 総務財政委員会 民生委員協議会
- 16日 青年、婦人の「一日役場職員」
- 17日 教育民生委員会
- 18日 精薄者収容施設委
- 19日 県町村会、部落づくりゼミナール
- 20日 議会運営委員会
- 21日 12月定例町議会開く

町長には青年町長にふさわしく町連青副会長の三浦真一君、助役には女房役にピッタリの婦人会員中村ミツ子、一日役場職員としての仕事を体験する。職員が仕事をし、本物の職員をそばに仕事の内容を聞かされた。

朝の訓辞を聞き、各職場に分かれて実際に事務をとった。

町長には青年町長にふさわしく町連青副会長の三浦真一君、助役には女房役にピッタリの婦人会員中村ミツ子、一日役場職員としての仕事を体験する。職員が仕事をし、本物の職員をそばに仕事の内容を聞かされた。

この「一日役場職員」の催しは役場の実務を通して町政への理解を深めるために開かれたもので、従来行なわれていた一日町長などと違って中々住民を対象としたところに特色があり県内初めての試みであった。

ある婦人会員は「役場がこんなに忙しいところだとは思っていませんでした。仕事の内容がみんな私達町民のためになるようにそして新しい町づくりに真剣に取り組んでいるのが痛感されました」と語っている。

何んといふあたたまる贈り物でありました。折よく歳末たすけあい運動を実施中の町民課係はこの好意を恵まれない人々に贈りたいと語っている。

【写真】マンモス競技場で晴れの表彰を受ける鈴木君三位

全国大会陸上百米

むづかしいと言われているが、この悪条件を克服して見事第三位入賞した鈴木君の快挙は各方面からたたえられている。

町政メモ

- 12月1日 全国町村長大会
- 2日 月例監査
- 4日 国有林開放東北大会
- 4日 新田目児童館落成式
- 5日 合川高校運営委員会
- 8日 戦没者叙勲の伝達
- 8日 人権擁護委員会
- 10日 土木工事関係入札
- 10日 東北ゼミ研修会
- 14日 国保運営委員会
- 15日 総務財政委員会 民生委員協議会
- 16日 青年、婦人の「一日役場職員」
- 17日 教育民生委員会
- 18日 精薄者収容施設委
- 19日 県町村会、部落づくりゼミナール
- 20日 議会運営委員会
- 21日 12月定例町議会開く

- ▲増沢
- 杉淵千代光 杉淵テミ子
 - 杉淵ユキ子 杉淵タマ子
 - 杉淵ツユキ
 - ▲美栄
 - 岸野健夫 藤島佐久栄
 - ▲李岱
 - 木村建二 杉淵富士男 成田満郎 成田テルユ 成田ミチ子 奈良栄子 木村美智子 平川節子 平川ウタ子 平川ミツ 成田征子 木村恵子 松岡ハナ
 - ▲羽根山
 - 松岡弘美 藤岡賢悦 金田綾子 松岡睦子 松岡サダ子

- ▲福田
- 鈴木徳雄 松井ツチ子 鈴木信子
 - ▲新田目
 - 斎藤良一 斎藤サツ 浪岡ミチ子 金田リツ
 - ▲杉山田
 - 伊東昭三 伊東満 伊藤多喜子
 - ▲雪田
 - 山岡キヨエ
 - ▲鎌沢
 - 鈴木次男 加藤義隆 加藤ルリ子 御所野ミキ子 鈴木陽子 御所野弘子
 - ▲三木田
 - 三浦欽一 相馬史郎 三浦克昭 三浦ナリ子 三浦良子 三浦誠子 三浦愛子 三浦ノブ

- ▲摩当
- 金田俊一
 - ▲三里
 - 福岡義雄 福岡勝 松橋文助 福岡トシ子 福岡テチ子 福岡京子 松橋キヨ子 松橋戴子 福岡由美子
 - ▲大内沢
 - 成田良一 成田修一 松橋行雄 成田良子
 - ▲芹沢
 - 土濃塚謙一郎 高谷軍八郎 土濃塚和子 土濃塚八千代 土濃塚カツ 高谷藤男
 - ▲東根田
 - 桜田貞行 桜田幸男 桜田昇 杉淵耕蔵 桜田ミサ
 - ▲西根田
 - 桜田栄一 桜田玲子

△歳末に拾う△

△その一△

今年もあとわずか、楽しいお正月を目前にした十二日の下杉部落の火災で合川二年生の木村鉄造君、一年生の木村容造君が焼け出され、両君とも大切な学用品を何一つ持出すことができませんでした。

この様子にいたく同情した下杉部落の同級生達が自分達で出来る助け合いをとお話したところ、自分達の小さいお金を出し合って何か贈ってはどうかということになり二年生は桜井博幸君ら十六人が百円ずつ出し合い、ズツと筆入れを買って求め、残った千円とともに鉄造君へ、また一年生は後藤光芳君ら十六人が五十円ずつ出し合って八百円を容造君へ贈った。この小さな助け合いの輪が罹災者に助け合いの手をという部落全体の運動へと広がり皆んなに感謝されている。

成人記念 生活作文募集

昭和四十年の成人式は例年どおり一月十五日に開催されますが、公民館では今回の成人式から次の要項で生活作文を募集することになったので多数応募ください。

要項

- 一、題は成人となつた意義を象徴するものであれば題は自由である。
- 二、作品は生活記録的な作文で四百字づつに開催されますが、め原稿用紙五枚以内とする。
- 三、締切りは昭和四十年一月五日まで
- 四、送り先は合川町教育委員会内公民館事務局。
- 五、審査は審査員は町長、公民館長、教育長、町連合青年会長の四名とし、入選三点以内、佳作五点以内を決定。
- 六、発表は一月十五日成人式当日会場で行なうとともに入選作品を広報あいかわに掲載する。
- 七、褒賞は入選作品には賞状と記念品、佳作には記念品を贈呈。
- 八、その他原稿はお返ししません。入選者は成人式で発表していただきます。

合川町公民館